令和8年度　授業改善推進プラン　〈5年〉

小平市立小平第十五小学校

	伸ばしたい力	具体的な改善策	改善プランの評価方法
国語	自分が伝えたい内容を相手に分かりやすくまとめ、筋道を立てて伝えることができる。	自分が伝えたい内容をメモとしてまとめ、その内容に具体的な事例を付け足させる。そのメモを基にして、事例のある説得力のある伝え合いができるようにする。	作文、話し合い活動など対話的な学びの場から評価する。
	事実と意見の関係をとらえて、要旨を把握する。	「事実」と「意見」「感想」との関係を明らかにするために、文の構成や接続語、文末表現に注意して読ませる。内容の中心となる段落をおさえ、事柄をロイロノートやノートにまとめられるようにする。	学習プリント、ノート、ロイロノート、ワークテストで評価する。
社会	社会的事象に関心をもち、知識や事象を相互に関連付けて考えを深めることができる。	各自が自分なりの考えや疑問をもてるように事象の取り上げ方を工夫して、広く社会に目を向けさせるようにする。	発言やノートのまとめなどから評価する。
	課題を追究し、内容をまとめる力や表現する力を高める。	対話の時間を常に設定し、追究活動で考えたことを表現する機会を増やす。また、モデルとなるまとめ方について紹介し、情報共有する。	対話での発言やノートなどから評価する。
算数	四則計算、人口密度や速さを求めること、グラフの読み取りや活用ができる。	・宿題や朝学習などに学習者用端末やプリント等を活用し、継続して練習に取り組むことで学力の定着を図る。 ・割合を使った計算、小数×小数や小数÷小数、分数±分数の計算は確実にできるようにする。	プリントやドリル、ノート、ワークテスト、東京ベーシックドリル診断テストで評価する。
	課題を正確に捉え、問題に対する自分の考えをまとめたり表現したりする力を高める。友達の考えと比較し共通点や相違点を見つけ、その単元での大事な考え方について押さえる。	・既習事項を活用し、自分の考えを必ず記述する指導をする。 ・数量の関係を正しく捉えられるように図に表したり、短い文章で表したりするように指導する。 ・自分の考えと友達の考えを交流することで力を伸ばしていく。 ・習熟度別の学習形態を取り入れ、問題提示の仕方や解決方法に結び付く声掛けを工夫する。	授業中の活動の様子や発言内容、ノートの記述やワークテストで評価する。
理科	どの単元においても問題を意識して実験、観察計画を立てることができる。	児童にとって身近な事象を導入時に取り入れることで、児童全員に課題意識をもたせ、主体的に実験計画を立てられるようにする。	ワークシートやノート、学習の様子から評価をする。
	実験の結果から考察を自分でまとめることができる。	結果から考えることを自分の言葉や図でまとめて書かせる。その後、考えたことを共有することで考えを深めさせる。	ノートやワークシートの記述から評価をする。
音楽	リコーダーや器楽合奏で使用する楽器の基礎的な技能を習得し、自信をもって表現できる。	リコーダーや器楽合奏の基礎的な奏法を、視覚教材で示し、個人練習、ペア練習の練習時間を設けて、繰り返し練習することを通して確実に習得できるようにする。	児童の演奏の様子を観察し、ねらいに達しているかどうかを評価する。
	歌唱表現するための基礎的な力を身に付ける。	楽譜に記された記号に注目させ、身体を使って表す活動や友達と関わり合う活動を通して、曲の特徴を感じ取って言葉で表現する活動を取り入れる。	発言内容や活動の様子を観察し、ねらいに達しているかどうかを評価する。
図工	自分の表したいことに合わせて、材料を選択したり、組み合わせを工夫したりして表す。	製作活動において、自分の作品を見つめ直す時間を設定し、様々な材料の特徴を生かし、いろいろ試しながら作るようにする。	児童の活動の様子、製作過程、完成作品を評価する。
	友達の作品や身近な美術作品を鑑賞することで、多様な表現のよさに気付く。	友達同士で作品を見合う時間を設定し、感じたことを伝え合う活動をする。さまざまな美術作品を鑑賞し、多様な表現方法に気付き、感じたことを友達と意見交換させる。	児童の活動の様子、鑑賞カードを評価する。
家庭	裁縫や調理などについての基本的な技能を身に付ける。	実践的・体験的な学習を多く取り入れ、衣食住についての基礎的な技能を十分に体験させる。	児童の活動の様子や、作品等から評価する。
	家族の一員としての自分を意識して、家庭の仕事に責任をもって行うことができる。	自分の生活を振り返り、家族のためにできる仕事を自ら考えて実行する。	ワークシートや家庭科ノート、ロイロノートの記述から評価する。
体育	個人のめあてをもって学習し、工夫しながら運動することで基礎的な技能を身に付けることができる。	学習カード、ロイロノートを活用し、それぞれのポイントを図や動画で示す。技能の段階にあっためあてを児童が理解し、自分の動きを動画等でも確認しながら、めあてに向かって活動をさせる。	学習カードやロイロノートのめあてに向かってすすんで取り組む態度から評価する。
	友達と互いに協力することで、互いの力（特に、思考力・判断力・表現力）を高め合うことができる。	グループやチームで話し合い、作戦を考えて実行してみたり、ポイントに沿って、友達同士で動きを確認しアドバイスをしたりしながら学習することで、お互いの力を高め合う。	学習の様子や振り返りカードから評価する。
道徳	自分も相手も大切にできる心を育てる。	教材を通して、親切、思いやり、感謝の気持ちを育むと共に、自身の生活を振り返る時間をもち、相手の気持ちを考えて行動したり、協力したりする場面を考えられるようにする。	学習の様子や、ワークシートの感想、日常の生活体験への活用などから評価する。
	多様な考えを受け入れ、様々な視点で考えることができる力を付ける。	グループや学級全体において、自分や他人の考えに耳を傾け、それぞれの思いを認め合う場面や伝え合い活動を大切にする。	学習での聞き方や話し合いなどから評価する。
特活	自分たちの力で目標を実現していく力を育てる。	学級会を通して主体的に話し合い活動に取り組み、考えたことを実践し振り返ることによって、次への意欲につながるようにする。また、自分たちで議題を考えさせ議論することで、目標を実現していく力を高める。	学級会カードや話し合いの様子から評価する。
	高学年として、様々な学校の仕事に意欲的に取り組む。	委員会や様々な行事から、高学年が学校全体に関わる仕事をしていることを知り、自分のやるべきことを自分で考えてすすんで活動する。	振り返りシートやカードで評価する。
総合	自分が知りたいと思う課題をすすんで調べ、解決したり体験したりしようとする態度を身に付ける。	自分の課題に対して、どのように考えれば解決につながるか見通しをもたせながら、課題解決に取り組むことができる学習環境を保障していく。地域人材を活用した学習を設定し、より深く探究できる学びを保障していく。	活動の様子や、まとめのカードなどから評価する。
	自分の課題を深く追究し、課題に対する結論を考える、まとめることができる力を身に付ける。	本やパソコンを活用し、調べた内容について整理したり、まとめたりすることのできるワークシート等を用いて、自分の考えを分かりやすく表現できるようにする。	活動の様子や、まとめた成果物から評価する。
外国語	英語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、楽しみながら学習する。	ゲームや歌など体験的な活動をたくさん取り入れ、英語学習に興味をもってすすんで取り組めるようにする。	学習の様子やワークシート、感想カードなどから評価する。
	英語技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）を用いて、積極的にコミュニケーションをとることができるようにする。	ALTや津田塾大学との交流を通して、英語のリズムや音の響きに触れたり基本的な表現について繰り返し言ったりすることで、自然な発話を促す。	活動の様子、パフォーマンステストから評価する。